

# 豊川の地域作物「バラ」の栽培

豊川の地域作物のひとつに、バラが挙げられる。バラは、生徒たちにとって魅力的な花であり、きれいに咲かせたいという思いを強くもって育てることができる。

多くの生徒は、種を蒔いたり球根を植えたり、苗を植えたりして植物を育てた経験はある。しかし、挿し木の経験は少ない。

この授業を通して、育てたバラを家庭でも挿し木して増やすような、生物育成に興味や関心を持った生徒を育てたいと考えた。

## 1. 題材選定の理由

昨年度は、初めて生物育成を扱うこともあり、比較的簡単に扱える観葉植物を題材に行った。しかし、観葉植物は大きくなるだけであまり変容がないため、観察しても楽しみは少なく、生徒たちは関心をもって取り組むことはできなかった。そこで本年度は何を栽培しようかと考え、バラに目をつけた。

バラを選定した理由はいくつか挙げられる。

- ① 豊川市のバラは、全国でも1番の産地規模を誇り、2007年には内閣総理大臣賞を受賞した。花業界のトップブランドとして全国でも有名である。
  - ② 生徒たちにとって挿し木という増やし方はあまりなじみがなく、自分が育てたバラを家庭でも簡単に増やすことができる。
  - ③ 室内で育てることができるため、観察や栽培がしやすい。
  - ④ 花を咲かせることができるので、生長の変化や季節感を感じることができる。
  - ⑤ 実際にバラ農家の方に来ていただくことで、アドバイスや問題が生じたときの対応、肥料や農薬などの提供などが専門の立場でしていただくことができる。
- などである。

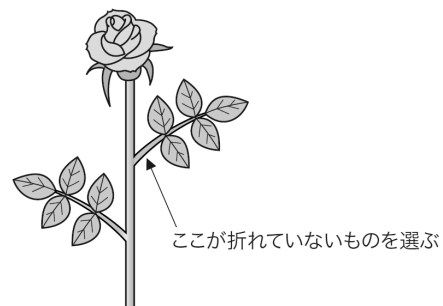
## 2. 授業実践

5月中旬に挿し木を行った。バラは、もしもの

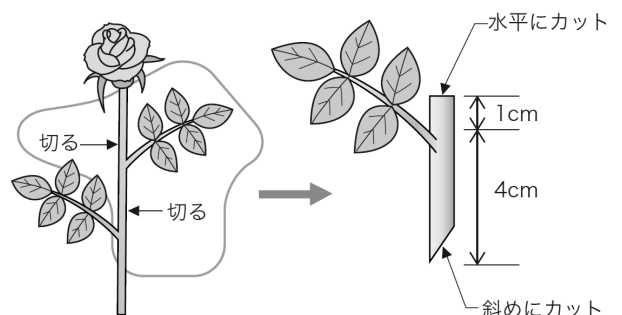
ことを考えて1人2本ずつ育てることにした。

## 3. バラの苗（挿し木）の作り方

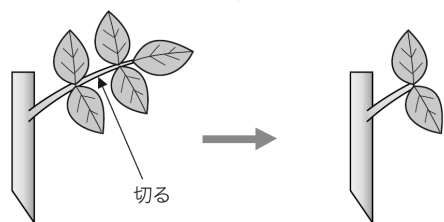
- ①挿し木用ポット（ロックウール）を水に浸す
  - ・バケツに水を入れ、ポットが水中に全て入るまで待つ。
- ②挿し木を作る
  - ・4～5人班に2本ずつバラを配布する。1本のバラから7本ほどの挿し木がとれる。
  - ・トゲをとる。
  - ・葉っぱの茎の折れていないものを選ぶ。



- ・刃に付いた油を拭き取ったカッターナイフで斜めにカットする。

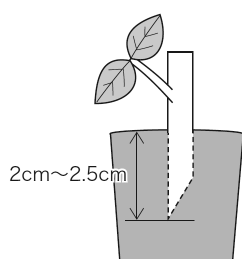


- ・余分な蒸散を防ぐため、葉っぱを2枚にする。



### ③ポットへ挿す

- ・挿し木の深さは2～2.5cmにする。深く挿しすぎると腐ってしまい、浅すぎると枯れてしまう。



### 4. 日当たり

- ・挿し木が終わったら1週間は日陰に置く。その後は少しずつ日に当てるようにする。3～4週間たてば1日中日の当ててよい。

### 5. 水やり

- ・挿し木から12～14日で1回目の水やり。
- ・その後は7日後にもう1回水やり。
- ・その後は5日後にもう1回水やり。
- ・その後は5日後にもう1回水やり。おそらくこの頃に根がポットの下に見えてくる。
- ・その後は5日後に肥料を混ぜて水やり。この頃芽が伸び始める。
- ・その後はポットが乾かないように気をつけながら肥料と水やりを続ける。
- ・2.5～3か月くらいでつぼみができて開花する。

### 6. 観察記録

- ・1.5か月程たった頃から観察日記を取り始めた。背丈はだいたい15cm程に育っていた。
- ・6月になってウドンコ病が発生した。農薬を散布したが、速効性はないようだ。
- ・1～2週間おきに授業のはじめに15分程度時間をとって観察記録をとった。
- ・1学期末に持ち帰って、夏休みも引き続き観察を

行った。

④ 8月16日	日<月>	芽文	45
スケッチ		葉の数	8
		花の数	1
		葉の様子	いすいせと
		葉の色	緑
		感想 毎日見ていたけど、2週間も思くとくせから育ててこの花が咲き成長したのはすごいと思った。 8.21には3つとも花が咲いた。 ハワイのせいけんは、いすいせとこうするのかわりと思ってた。	

### 7. 観察記録のコメント

#### 生徒A

- ①背丈が小さくなってきた。何でかなあ。葉は少しだけ増えてうれしい。水を毎日あげないとすぐ乾燥してしまうので気をつけます。鉢に植え替えました。
- ②新しい葉が出てきてうれしい。鉢に植え替えたので保水力があるからだろうか、元気になってきた。少しトゲが生えてきた。
- ③赤っぽかった新芽が大きくなって緑っぽくなってきた。背丈も大きくなりつぼみが出てきた。
- ④やっと花が咲いた。挿し木から3か月近くかかった。これからもっと花が咲くようにしっかり世話をしたい。そして挿し木をして2代目を増やしたい。

### 8. 実践を終えて

7月中旬からつぼみができて開花し始めることを期待していたが、実際は1学期の終わりに数人の花が咲いた程度であった。温室栽培との環境条件の違いなどから生育が少し遅れたようである。家庭に持ち帰ってからも、夏休みの間は観察記録を続けさせた。花が咲いたという喜びの声もあったが、猛暑のせいか水やりを怠るとすぐにポットが乾燥してしまい、枯らしてしまった生徒も数多くいた。生物育成の難しさを改めて感じる事ができた。

今現在は、鉢や露地に植えて育てているが、バラは害虫がつきやすいため、害虫駆除をする必要がある。季節が秋になり、開花する花が増えてきた。来年度は、さらに良い環境を整えたり、強い品種に変更したりするなどの改善を行いたいと考えている。